

# 11 課

9月12日

## イエスの物語を伝える



安息日午後 9月5日

### 暗唱聖句

これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。(1ヨハネ5:13、口語訳)

神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです。(1ヨハネ5:13、新共同訳)

### 今週の聖句

エフェソ2:1~10、1ヨハネ4:7~11、マルコ5:1~20、ヘブライ10:19~22、ガラテヤ2:19、20、1コリント1:30

### 今週のテーマ

先の課で述べたように、変えられた人生ほど福音の力を雄弁に物語るものはありません。人々はあなたの神学について反論したり、教理について議論したり、聖書に対するあなたの理解を疑問視したりするかもしれません。しかし、イエスがあなたにとってどのような意味を持ち、あなたの人生の中でどのようなことをしてくださったのかというあなたの個人的なあかしを、彼らが問題にすることはめったにないでしょう。

あかしとは、私たちがイエスについて知っていることを伝えることです。彼が私たちにとってどのような意味を持ち、私たちのためにどのようなことをしてくださったのかを人々に知ってもらうことです。もし私たちのあかしが、自分の信じていることの正しさや、ほかの人の信じていることの誤りを証明しようとすることばかりであれば、私たちは強い反発を受けるでしょう。もしイエスに関する私たちのあかしが、彼の恵みによってつくり変えられ、彼の愛に魅了され、彼の真理に驚いた心から生じたものであるなら、人々は、私たちの信じる真理がいかに私たちの人生に影響を及ぼしたかに感銘を受けるでしょう。変えられた人生との関連で示された真理は、とても効果があります。

すべての教理の中心がキリストであり、聖書に関するすべての教えに彼の品性がにじみ出ているとき、私たちが聖書を分かち合う人は、はるかに高い確率でみ言葉を受け入れることでしょう。

私たちはみな、クリスチャンとして語るべき個人的な物語、イエスがどのように私たちの人生を変え、私たちのためにどのようなことをしてくださったのかという物語を持っています。

**問1 エフェソ2：1～10を読んでください。キリストを知る前、私たちはどのような状態でしたか。キリストを受け入れてから、私たちの状態はどうか。**

①キリストを知る前（エフェ2：1～3）

②キリストを知ったあと（エフェ2：4～10）

なんと驚くべき変化でしょう！ キリストを知る前、私たちは「罪過と罪とによって死んでいた者であって」（エフェ2：1、口語訳）、「この世のならわしに従……って、歩いていたのであ（り）」（同2：2）、「肉とその思いとの欲するままを行い」（同2：3）、「生れながらの怒りの子であった」（同）のです。要約すれば、キリストを知る前、私たちは迷子の状態で、目的もなく人生をさまよっていました。

私たちは、幸福そうに思えることを経験したことがあるかもしれませんが、人生には魂の不安と果たされない目的がありました。キリストのもとへ行き、キリストの愛を体験したことで、状況が一変しました。今や、私たちはキリストにおいて真に生きています。「豊かな」「あわれみ」（エフェ2：4、新改訳）と「大きな愛」（同）によって、私たちは救いという賜物を受け取りました。神は私たちを、「キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです」（同2：6、7、新共同訳）。キリストによって、人生は新しい意味と目的を持ったのです。ヨハネが、「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった」（ヨハ1：4、新改訳）とはっきり言ったとおりです。

**問2 エフェソ2：10を読んでください。この聖句は、クリスチャンの信仰にとっていかに善い業が重要であるかということについて、何を教えていますか。救いは「律法の行いによるのではなく」（ロマ3：28）信仰によるということとの関連において、私たちは先の考えをどう理解したらよいのでしょうか。**

ゼベダイの子ヨハネとヤコブは、「雷の子ら」(マコ3:17)として知られていました。実のところ、そのあだ名を彼らに付けられたのはイエスでした。イエスと弟子たちがサマリア地方を旅していたときに、ヨハネの激しい性格を如実に示すことが起きました。彼らはその晩の宿泊先を見つけようとしていましたが、ユダヤ人に対する偏見のために、サマリア人から反発を受けたのです。弟子たちは最も粗末な宿さえ断られました。

ヤコブとヨハネは、この問題の解決方法があると思いました。「弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、『主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか』と言った」(ルカ9:54)。しかし、イエスはその兄弟を戒められ、一行は静かにその村を去りました。イエスの方法は愛の方法であって、けんか腰の力ではありません。

イエスの愛に触れる中、ヨハネの性急な行動や怒りは、愛情あふれる親切な心や優しく思いやり深い精神につくり変えられました。ヨハネの最初の書簡の中には、「愛」という言葉が40回近く、また、その言葉が形を変えて50回登場しています。

**問3** 1ヨハネ1:1~4、3:1、4:7~11、5:1~5を読んでください。これらの聖句は、ヨハネのあかしと、イエスとの交わりによって彼の人生に起こった変化について、どのようなことを教えていますか。

ここには、宇宙の法則である永遠の原則があります。エレン・G・ホワイトは、この原則を次のような言葉でうまく述べています。「暴力の行使は神の統治の原則に反する。神は愛の奉仕だけを望まれる。愛を命令することはできない。暴力や権威によって愛を手に入れることはできない。愛は愛によってのみ目覚めさせられる」(『希望への光』676ページ、『各時代の希望』上巻4ページ)。

私たちがキリストに献身するとき、彼の愛が私たちを通して人々に輝き出します。キリスト教の最高のあかしは、変えられた人生です。これは、私たちが決して過ちを犯さないという意味ではありません。私たちは、本来期待されている愛と恵みの管に時折なれないかもしれません。しかし理想的には、キリストの愛が私たちの生活の中から流れ出て、私たちが周囲の人たちにとって祝福になるということを意味しています。

あなたはキリストの愛をどのように人々に示していますか。あなたの答えが意味していることについて、考えてください。

イエスが遣わされた最初の宣教師はだれだったでしょうか。イエスが遣わされた最初の宣教師は、数時間前まで片田舎を恐怖に陥れ、近隣の村人たちをおびえさせていた狂人たち、悪霊に取りつかれた男たちでした。

超自然的な悪魔の力によって、悪霊にとりつかれた2人のうちの1人は、自分を縛っていた鎖を引きちぎり、恐ろしい叫び声をあげ、自分の体をとがった石で傷つけました。(マタ8:28、29、マコ5:1~5)。

しかし、やがて彼らはイエスと出会い、人生が変えられました。(マタ8:32~34、マコ5:13、14)。

**問4** マルコ5:1~17を読んでください。この男たちに、何が起きましたか。町や村の住民は、何が起きたのかを見ようと来たとき、何を見いだしましたか。

悪霊に取りつかれていた男たちは、今やキリストの力によってつくり変えられた新しい人でした。町の人たちは、2人がイエスの足元に座り込み、主の口から語られる言葉の1つひとつに耳を傾けている姿を見ました。マルコによる福音書は、悪霊に取りつかれた2人の内の1人に物語の焦点を合わせていますが、マタイによる福音書は、悪霊に取りつかれていた2人の男が解放されたと記しています。その点は注目すべきことですが、重要なのは、彼らが肉体的、精神的、感情的、そして霊的に、イエスによって回復されたという点です。

**問5** マルコ5:18~20を読んでください。悪霊に取りつかれていたこの人たちは変えられ、新しい改宗者となり、明らかにイエスと一緒にいきたいと願いました。しかしキリストは、どのようなことをするようにと彼を遣わされましたか。

「彼らがキリストの教えを聞く特権を与えられたのはほんの数分間にすぎなかった。彼らはキリストから1つの説教さえきかされなかった。彼らは、毎日キリストといっしょにいた弟子たちのように、人々を教えることはできなかった。だが彼らは、自分自身のうちにイエスがメシヤであるという証拠を持っていた。彼らは知っていることを語ることができた。キリストの力について自分自身が目で見、耳で聞き、心に感じたことを語ることができた。これこそキリストの恵みにふれたことのある人ならだれでもできることである」(『希望への光』844ページ、『各時代の希望』中巻65、66ページ)。彼らのあかしによって、デカポリス地方(ガリラヤ湖のほとりにあった10の町)は、イエスの教えを受け入れる備えができたのです。これが個人的なあかしの力です。

問6 Iヨハネ5:11~13、ヘブライ10:19~22、Iコリント15:1、2を  
読んでください。聖書は、私たちが自信を持ってキリストにある救い  
をあかしできるように、どのような永遠の命の確信を与えてくれますか。

もし私たちがイエスにある救いの確信を個人的に持っていなければ、それをほかの人に伝えることはできません。私たちは、自分が持っていないものを分け与えることはできないからです。いつまでたっても確信を持たず、自分は救われるに値するほど善良だろうかと迷っている良心的なクリスチャンがいます。かつて、ある賢い年配の牧師が言ったように、「自分自身を見るなら、救われる可能性があるとは思えません。しかしイエスを見るとき、滅びる可能性があるとは思えないのです」。主の言葉は、遠い昔から、確信を伴って聞こえてきます——「地の果てのすべての人々よ／わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない」（イザ45:22）。

主は、私たち1人ひとりが主から無償で与えられる救いを受け取ってほしいと願っておられます。主の恵みによって義とされ、罪悪感がもたらす激しい非難から自由になるとはどういうことかを、私たちに経験してほしいと願っておられるのです。パウロがローマ5章で言うように、「わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得て」（ロマ5:1）います。彼はまた、「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」（同8:1）という確信を持つことができるとも付け加えています。使徒ヨハネは、「御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません」（Iヨハ5:12）とはっきり述べています。

もし私たちが信仰によってイエスを受け入れたのなら、彼は聖霊を通して私たちの心の中に住んでおられます。これは、私たちが神の恵みとキリストにある救いをひとたび経験したなら、それを失うことは決してないと言っているではありません（IIペト2:18~22、ヘブ3:6、黙3:5）。私たちにはいつも、神から立ち去ることを自由に選択する権利があります。しかし、ひとたび私たちが神の愛を経験し、その犠牲の大きさを理解したのであれば、私たちをこれほど愛しておられる方から立ち去るという選択をすべきではありません。私たちは日々、イエスによって与えられた恵みをほかの人に伝える機会を探しましょう。

あなたはイエスによって救われていると信じていますか。それは何を根拠にしていますか。聖書の中のどこにその確信を見いだせますか。一方で、もしあなたに確信がないなら、それはなぜでしょうか。どうしたら確信を見いだすことができますか。

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです」(ガラ2:19、20)。

私たちがキリストを受け入れるとき、確かに犠牲は伴います。キリストが私たちに、捨てなさい、とお求めになるものがあります。イエスに従うために必要な献身を、主は明らかになさいました——「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(ルカ9:23)。十字架上の死は、痛みを伴う死です。キリストの要求に対して、私たちが自分の一生をささげ、罪のこの「古き人」(ロマ6:6、口語訳)が十字架につけられるとき、痛みが伴います。時として、長年の願いや生涯続いてきた習慣を捨て去ることは痛みが伴いますが、その報いは、痛みをはるかに超えるものです。

ほかの人の人生を変えるほどの影響力を持つ力強いあかしは、私たちがキリストのために捨てたものに焦点を合わせるのではなく、キリストが私たちのためにしてくださったことに焦点を合わせます。そのようなあかしは、私たちのいわゆる「犠牲」に重点を置くのではなく、キリストの犠牲に重点を置くのです。なぜならキリストは、持ち続けることが私たちにとって最も利益になるものを捨てなさいとは、お求めにならないからです。

**問7** ヨハネ1:12、10:10、14:27、1コリント1:30を読んでください。私たちのあかしは、キリストが私たちのためにしてくださったことにいつも基づきます。聖句の中で述べられているキリストの恵みの賜物を書き出してください。

先の聖句を踏まえて、キリストがあなたのためにしてくださったことを考えてください。あなたは生涯ずっと献身的なクリスチャンであったかもしれませんが、もしかすると、はるかに劇的な回心を経験されたかもしれません。神があなたにとっていかに恵み深い方であったか、どのような目的、平安、喜びを与えてくださったか、思い返してください。

キリストのために、あなたはどのような犠牲を払うように召されたことがありますか。あなたは自分の経験から、ほかの人の祝福となるどのようなことを学びましたか。



「イエスのまわりにひしめき合っている驚いている群衆は、いのちの力を受けられることを認めていなかった。しかし苦しんでいる女が、いやされることを信じてイエスにさわろうと手をさし出した時、彼女はいやしの力を感じた。霊的なことにおいてもこれと同じである。不用意に宗教のことを語ったり、魂のかわきや生きた信仰がなくて祈ったりしても、それは何の役にも立たない。キリストをただ世の救い主として受け入れる口さきだけの信仰では、決して魂をいやすことができない。救いにいたる信仰は、頭だけで真理に同意することではない。……キリストについて信ずるだけでは十分でない。キリストそのものを信じなければならない。われわれを益する信仰は、キリストを自分自身の救い主として信ずる信仰、キリストの功績を自分自身のものとする信仰だけである。……

キリストの忠実さについてわれわれが告白することは、キリストを世にあらわすために天のえらばれた方法である。われわれは、昔の聖人たちを通して知らされた神の恩恵を告白すべきであるが、しかし最も効果があるのは、われわれ自身の経験によるあかしである。神の力の働きを自分自身のうちにあらわす時、われわれは、神の証人である。各個人はそれぞれ他人とちがった人生を持っており、また本質的に他人とちがった経験を持っている。神は、われわれの賛美が、それぞれ特有の個性を帯びてみもとにのぼることをお望みになる。このようなとうい告白によって神の恵みの栄光を賛美することは、それがクリスチャン生活によって裏づけられる時、抵抗することのできない力をもって魂の救いのために働くのである」（『希望への光』847、848 ページ、『各時代の希望』中巻74、75 ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① 説得力のあるあかしの要素は何ですか。アグリッパの前におけるパウロのあかし（使徒 26：1～23）を読んでください。彼のあかしの基礎になっていたことは何ですか。
- ② キリストが私たちのためにしてくださったことに関する私たちの個人的なあかしには、なぜ影響力があるのだと、あなたは思いますか。しかし、次のような質問に対して、あなたは何と答えますか——「なるほど、あなたにはそういうことが起こったのですね。でも、私に同じような経験がないからといって、それがどうだというのですか。私がイエスに従わなければならない何らかの理由を、なぜあなたの経験から学ぶことができると言えるのですか」
- ③ 信者でない人にあかしをするとき、あなたが避けたいと思うことは何ですか。